移住者×インタビュー



コミュニティスペース つむじ
運営　橋田（はしだ）　知子（ともこ）　さん

移住の理由は「心地いい」

きっかけは、他市の援農プログラムに参加した際に、たまたま橋本市の名前を聞いたことです。もともと和歌山にいい印象を持っていたこともあり、橋本市の地域おこし協力隊に応募することを決めました。

面接で訪れた時に強く感じたのは、山に囲まれた景色の美しさです。晴れの日はもちろん、雨の日でも美しいと思える風景が好きで、どこか懐かしさを覚えるようなそんな風景に魅了されました。

また、地域の方や同世代の移住者、市役所の方など、訪れた先で出会った人たちの雰囲気もとてもよかったです。景色も人も心地いいと感じたのが、ここに来てみようと思った理由です。

自然体で暮らせる

実際に橋本市で暮らし始めてから、いちばん魅力に感じているのは人との距離感です。地域の人たちは最初から自然に受け入れてくれて、近所で気軽に挨拶や声かけができる雰囲気があります。また、何をするにしても、自然体で接してくれるので、とても居心地がいいです。以前は一人で黙々と仕事をすることが多かったですが、ここに来てからの活動を通じて、みんなで何かを作る楽しさを知りました。

特に印象に残っているのが、「つむじ」の改修ワークショップです。地域にあった古民家を改修し、4月にオープンしたつむじでは、訪れた人が、その心地よさに感動し、木の匂いや手触りを確認しながら、ゆっくりとした時間を過ごしてくれています。「時間を忘れる」「なかなか帰れない」と言ってもらえることもあり、少しずつ地域の居場所になってきているのがうれしいです。

つむじでは、昼のカフェ営業に加え、夜にお酒を楽しめる「スナックつむじ」、地域の人が夜に集まり交流する「つむじNight（ナイト）」なども企画しています。「ここでお酒が飲めたらいいな。地域のみんなで集まりたいな」という声があったこともきっかけです。気軽に集まり、飲んだり話したりする中で、新しいアイデアを自然に話せる場所にしたいと考えています。

つむじの目指すところは、住む人と外から訪れる人が出会い、つながり、その先に新しい活動や仕事が生まれていくことです。ただ単に、地域課題の解決を目的にするのではなく、まずはみんなが一緒に笑って、楽しい時間を過ごすことを大切にしています。楽しいから集まり、また来たいと思える。その積み重ねが、自然と地域を変えていくのではないかと感じています。

「また来たい」って思って欲しい

橋本市は、都会にも自然にもアクセスがよく、人との距離感も「ちょうどいい」、とても暮らしやすいまちです。新鮮な野菜が並ぶスーパーや、飲食店、コンビニ、病院もたくさんあります。そんな橋本市で、地域の人たちと楽しい輪を広げ、私がそうだったように、橋本市を訪れた方が、「ここに来てよかった」「また来たい」と思える場所を今度は私が提供していけたらなと思っています。



▲「つむじ」には、さまざまな人が訪れ、食事や会話を楽しんでいます。

魅力がいっぱい 橋本市

豊かな自然と上質な農産物

紀伊山地と和泉山脈に囲まれた山間の土地で、まちの中心を紀の川が流れています。季節によって移ろう景色は、心まで豊かにしてくれます。

その豊かな自然の恵みを受けて育つ農産物は、どれも味がよく、高い品質と安全性を誇ります。









便利な立地条件

大阪方面（なんば駅）
●電車 …… 約45分

和歌山市（橋本IC～和歌山IC間）
●車 …… 約40分

関西国際空港
●車 …… 約60分

豊かな自然に囲まれながら、家族と過ごし、週末には、大都市へ気軽にお買い物に出かけられるのも橋本市の魅力です。



築129年の古民家を改修した、里山に囲まれた温かみのある場所

コミュニティスペース つむじ
【場所】高野口町上中78
【営業時間】10:00～15:00
【問合せ】shinodagurashi@gmail.com

「信太暮らし」Instagram